

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077600155		
法人名	社会福祉法人 三井福祉会		
事業所名	グループホーム白梅	(ユニット名)
所在地	福岡県久留米市北野町陣屋486-6		
自己評価作成日	令和3年3月	18日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階		
訪問調査日	令和3年4月	27日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角に民家を改造して造られた施設で、自然と地域に溶け込み、ご近所の方からも話しかけてくださるようになっており、また地域の行事にも積極的に参加しています。毎日ひとり一人の能力に合わせ、家事手伝い(洗濯物たたみ、掃除、野菜の皮むき、つぎ分け、お茶つぎ)や散歩、リハビリ体操など出来ることをしていただき、自立支援に繋がっています。食事は職員が作っている為、食材に応じて変更することができました、ご利用者の希望に沿った献立に対応できており、家庭的なおいおいを近くで感じる事が出来ています。ご利用者による調理会では、それぞれ役割を分担し、個々に活躍できる機会になっており、月1回の常会では、ご利用者の意見や要望を聞く機会を設けています。毎日のミーティングやケア会議にてご利用者の状況を職員間で共有しており、安全にまた安心して暮らせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内で様々な福祉事業を展開している社会福祉法人を母体としている。遠くに連山が望め、周囲には田園が広がり自然豊かで、閑静な住宅街に立地している。平成15年に民家をリフォームして開設した1ユニットの家庭的な事業所である。18年目を迎え、日頃は様々な地域行事に参加したり、近所付き合いも盛んで交流の場が多くあり、利用者は我が家のような生活が営まれている。コロナ禍で自粛生活が余儀ない現状の中、職員は利用者がストレスを抱え込まず、利用者主体の生活が継続できるよう常に寄り添い、思いや意見を聞き、一人ひとりのやりたいこと・出来る事を尊重しながらケアに努めている。利用者の表情や明るい笑い声から安心して心穏やかに生活されている様子が伺える。地域の高齢化も進んでおり、今後も福祉拠点として期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議や内部研修で理念の意義を見直したり、日々、ご利用者と関わる中で言葉かけや態度等を振り返り、ひとり一人が理念を意識し実践出来るようにしている。常に意識できるよう玄関、トイレに掲示している。	今の理念は平成21年に所長と職員で検討、見直しをしている。事業所の目につきやすいところに掲示され、全職員が理念を理解しており、ケアやコミュニケーションに悩んだり、迷った時の拠り所とし、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶や世間話をしたり、また野菜を頂いたりと気軽に声を掛け合えるような関係が出来ている。地域の行事にも参加できるように配慮してもらい、施設内行事にも近所の方に参加してもらっている。また小学校の仕事体験の受け入れもしている。	感染症蔓延前は、地域住民を招きバーベキューや鏡開きを一緒にしたり、地域行事等に利用者職員で参加する機会も多くあった。自粛生活の中、散歩の途中での挨拶や、野菜や四季の花のおすそ分け等の近所付き合いは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が見学に来られた時に施設の紹介や説明をさせていただき、理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、家族代表、民生委員、市役所、地域包括職員参加のもと、2か月に1回開催している。ご利用者の状況、行事、研修・勉強会、事故等の報告を行い様々な意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	令和元年までは集会で会議が開催され、市職員からは利用できる制度についてや民生委員からは地域情報の意見を受け、運営等に反映できていた。現在は事業所からの報告書提出のみになっており、必要な時は電話等で相談している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告している。相談事がある時には会議の時に話したり、また電話にてアドバイスをいただいたり、相談に乗っていただいている。	電話で市の担当職員より感染症対応についてアドバイスを受れたり、事故報告内容等について相談をする等いつでも連携が図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、また勉強会や研修に参加し拘束の弊害について理解を深めている。毎月の会議時にも話し合いの機会を設け、言葉使いや口調に気を付けるようにしている。玄関は施錠せず自由に出入り出来るようにしている。	法人内3つのグループホームが合同で身体拘束廃止委員会を開催し、各グループホームで伝達研修を実施している。コロナ禍では担当者が資料を作成し、事例検討などの内部研修を行い、職員は身体拘束の弊害について理解しており、日々のケアでは声掛け等お互いに注意し合う体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する委員会を設置しており自主的に勉強会を行っている。毎日のミーティング時に「虐待防止唱和」を行っている。また内部・外部研修に参加し虐待について理解し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、管理者が職員と家族に説明や情報提供をしている。家族会時に職員・ご家族・近所の方参加のもと、市役所に依頼し出前講座にて理解を深めて頂いた。また玄関にパンフレットを設置している。	2年前に外部講師を招き、勉強会を実施しており、玄関にパンフレットを配置している。昨年以降は研修等で学ぶ機会がなく、すべての職員が制度についての理解が十分とは言えない。	利用者の権利を守る観点からも、職員が制度について学習できる機会のあり方を検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項、個人情報等については十分説明を行い、理解・納得をして頂いている。後日に疑問や質問等が生じた場合は再度説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者との会話や、面接時のご家族との会話から、意見や要望を聞き、職員間で話し合い、サービスに反映出来るように努めている。また玄関に意見箱を設けている。	利用者からは担当職員がゆっくり対話する中で意見や要望を聞き、月1回の利用者、職員との常会（意見交換）では、献立から行事等について幅広く意見を聞いている。家族からは面会時や電話で意見を聞き、出た意見は職員会議で検討され、運営に反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングやケア会議、業務改善会議(3つのグループホームの管理者の会議)の中で、意見交換や提案を行っている。	職員はいつでも所長に意見が言い易く、働きやすいように職員会議で検討され、改善出来る職場環境がある。感染症対策の1つに事業所内でコロナ感染症が発生した場合のゾーン分けを提案し、設定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務については希望があれば、調整を行い、働きやすい環境を整えている。また職員が向上心を持って働けるよう、資格取得に向け協力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用に関しては法人担当者に一任している。また職員が得意分野で能力を発揮できるような環境作りに努めている。	法人の人事担当者が面接を行うが、年齢や性別等で排除することはない。資格取得や自己研鑽の為に勉強会には勤務で参加できている。職員は希望休暇が取り易く、一人ひとりの特技はレクリエーションや環境整備等で業務に活かされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部より講師を招き、法人全体で研修を行い、日々ケアの中で、ご利用者の尊厳やプライバシーを守り、主張や思いを大切にしよう心がけている。	所長が職員会議の中で、利用者の尊厳やプライバシーなど人権や接遇についての研修を実施している。又全職員がeラーニングにて接遇の学習を受けている。取り組みの一つとして利用者の部屋に入室する際は、ノックをし、了解を得るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部の研修には、職員のケアの実際と力量を把握し参加できるようにし、育成に役立てている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所やグループホーム部会に参加し、情報交換や勉強の機会を通じてサービスの質の向上を目指している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人との会話の中から心配事や困っているまた要望を聞き、安心してサービスを受けられるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で家族の不安や困っていること、要望を聞き相談に乗っている。また状況を電話にて報告し、ご家族との信頼関係が築けるよう支援している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で、ご本人や家族の意向、困っている事などから、何を必要としているかを見極め、場合によっては他のサービスなどを提供し、利用者様にとって最善の選択が出来るよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事や能力などを生活の中で反映し、今できる事とともに行うことで、関係を築けるよう努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回、状況報告書を送付している。また面会時には情報交換し、必要に応じて電話にて報告を行うことにより、共にご利用者を支えていけるよう関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の馴染みの場所や人を家族に尋ね、関係が途切れないよう支援している。馴染みのスーパーに買い物に行ったり、美容院や歯科医院、主治医も在宅の時より継続している。	職員が感染対策を具体的に伝えたくて、家族に依頼し、馴染みの場所やお墓参りに連れて行ってもらっている。遠方の家族、知人とは、電話や、リモートで連絡、交流が出来る支援をしたり、手紙や年賀状のやり取りの継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、ご利用者同士の関係でトラブルにならないよう配慮している。必要時には職員が介入することで、良い関係を持てるように努め、孤立しないよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も他のサービス機関と情報交換し、ご家族からも近況報告を得たり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活、会話の中から要望を聞き、活かせるように努めている。また、毎月常会を行い、一人ひとりに思いや意向を尋ね、希望に添えるように努めている。	毎月一回の常会の中で、利用者は行きたい所や食べたい物等、意見を出し合い、職員と一緒に実現に努めている。毎日の生活の中では、職員は利用者に寄り添い、したい事などを、その都度聞いて対応し、利用者の思いや体調に沿った支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やご家族または、これまでに支援してきたサービス事業所にて情報を得たり、生活歴やご本人との会話の中から生活環境を把握し、サービスに活かせるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、その人らしい生活が送れているか、申し送りや記録等を通し、スタッフ間で情報を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の課題や要望をケア会議やミーティングの中で意見交換したり、ご本人ご家族、必要な関係者と話し合った事を介護計画に盛り込み、現状に即したものを作成している。	利用者・家族の要望や意向、主治医や看護師の意見等も踏まえて、職員全体で毎日のミーティングや月1回のケア会議にて、ケアカンファレンスを行い、利用者の担当者が原案を作り、ケアマネジャーが介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、半年から1年で介護計画を見直す。状況変化や意向の変更等があれば、随時の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングや気づきノートを活用し、ケア会議で情報を共有し実践や介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族のその時々状況の把握に努め、安心して過ごしていただけるよう支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候のいい時はほぼ毎日の散歩、職員と買い物や外出を行っている。コロナ禍では面会制限や外出禁止になり外部との接触が少なくなったが、室内でのレクリエーションや行事に力を入れている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診される利用者には状況ノートに記入し、ご家族に対応して頂いている。往診の利用者には変化があった時には、ご家族に報告を行ったりして適切な医療を受けられるよう支援をしている。	利用者は以前からのかかりつけ医を継続している。受診時は職員が利用者の状況書類を準備し家族が通院介助するが、困難な時は職員が同行支援している。また往診もあり、事前にFAXで情報共有しスムーズに適切な医療を受けられる様にしている。利用者の状態変化や薬の変更等は、家族に随時連絡している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、異常がみられる時には看護師に報告し、受診に付き添い主治医に状況説明し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師も付き添い、病院関係者と情報の交換を行い、その都度スタッフに報告し、定期的に出向きまた、カンファレンスに参加し早期退院に向け支援を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会の時に説明を行っている。看取りの際はご本人、ご家族の意向を汲み取り、主治医との連携を図りながら支援している。またご家族が希望された時は、泊まっていただけよう支援している。	入居時や家族会等に、重度化、終末期について話し合い、事業所として出来る事を説明している。法人の施設等に移行体制があり、実際に、以前に移行した事例がある。利用者の日頃の状態変化については、利用者、家族、事業内の看護師や主治医、職員と情報共有して対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で毎年、ケア会議時に救命救急法の訓練を実施している。また看護師より助言や説明を受け、急変時に対応出来るようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、昼間と夜間想定 of 火災避難訓練を実施している。夜間想定時には消防立ち合いのもと訓練を行い、指導を仰いでいる。近所の方にも参加をお願いして協力体制を築いている。他に水害、地震時の避難訓練も実施している。	12月に火災避難訓練(昼・夜想定)と職員の消火訓練も実施、7月に水害避難訓練を実施している。日頃の声かけ、取り組み等により、近隣住民の協力体制がある。備蓄リストを作成しているが、実際の備蓄が十分ではない。各災害別のマニュアルはあるが公的避難場所へ移動する際の具体的な方法の確立に至っていない。	有事には、スムーズに避難誘導ができる準備として、備蓄内容の検討と避難手順について早めの整備と職員間での周知を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応を行い、自立した日常生活が送れるよう努めている。	利用者に対して、職員は、苗字に「さん」付けで呼称し、日頃のケアの中でも、尊厳をもって接している。排泄、入浴時には利用者のプライド等に十分に注意を払い、対応に努めている。記録の記載時や、書類等は利用者や外部者の目が届かない様に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、ご本人の希望を聞いたり、毎月の常会の中で意見を出しやすい場を作り、ご利用者の要望に応えられるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや生活のリズムを大切に、一人ひとりが自分の意思で決定出来るような声掛けをし支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衣類を自分で選んで頂いたり、外出時や行事の際は、その人らしい身だしなみをご自分でされている。また月に1度訪問カットにきてもらい、希望により利用されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際、野菜の皮むき、つぎ分け、お茶くみ、食後には食器洗いなど、出来る事に合わせて手伝っていただき、季節感のある食材や要望も取り入れ、食事を楽しむ事ができるよう支援している。	利用者が、事業所内の畑で草取りや収穫等をした季節の野菜が、食卓に並び、食事の楽しみになっている。日頃より献立の希望も取り入れている。食材の下準備、片付け等も、利用者は出来る事を自然に参加している。2ヶ月に1回、利用者主体の料理会を実施し、献立作成から、役割分担、準備、調理、片付けまで利用者が行い、職員が見守りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の提供量、食事形態については好みや咀嚼・嚥下の能力に応じて個別に配慮している。ひとり一人の水分量を把握し、水分摂取量が少ないご利用者には声掛けを行い摂取を促している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔ケアを行っている。口腔チェックを行い清潔保持に努め、要望があれば、歯科往診を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の能力、状況により排泄パターンを把握し布パンツ、紙パンツの使い分けをしている。日中はなるべく布パンツにし、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全体で把握している。入居時、紙パンツ使用だったが、布パンツに移行した事例もあり、現在は全員、昼間は布パンツに移行している。職員は、利用者の失禁時もプライドや尊厳に十分注意した声かけを行い、対応に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を献立に組み入れ、10時にはヨーグルトを提供し、またこまめに水分補給を促している。体操や散歩など適度な運動を行い、便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、個々の希望や状態に合わせて入浴を行っている。希望があればシャワー浴にしたり、拒まれる場合には時間を置いて再度声掛けを行っている。ゆず湯等で匂いや季節感を楽しんでもらっている。	毎日、入浴できる体制があり、利用者の希望や状態に応じて対応している。利用者は、ゆっくりと職員に悩みや思いなどを話す時間になっており、くつろぎの場となっている。職員は利用者には乾燥対策の保湿クリームを塗布したり、柚子湯など季節に応じた取り組みをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるよう、日中は散歩に出かけたり、リビングにて他利用者と会話して過ごしていただいている。不眠時には話を聞き、安心して眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の内服薬を把握し、服薬時には飲み込むまで確認を行っている。変更時には申し送りを行い記録している。服薬後、状態観察を行い異変時には早急に対応できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族の情報や希望をもとに調理手伝いや掃除、洗濯物たたみなど負担にならない程度に役割を持って自立支援を行っている。また日々の生活の中で楽しみごとを見つけ出し気分転換を図れるように努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日はホームの近くに散歩に出かけている。また個々に合わせての買い物、ドライブ、季節に応じての外出行事を行い、時折自宅へ帰られご家族と過ごされる。	利用者はマスク着用にて毎日、近隣や事業所の畑を散歩している。また利用者の希望で、神社やお寺のお参り、桜やツツジ等の花見にドライブしたりと、職員は外出支援している。家族は、感染対策をして玄関にて面会したり、受診等の支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より所持金を預かり管理している。買い物の要望がある時には、職員が付き添い、お金を使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ホームの電話にてご家族に談話したり、ご家族や知人にはがきを出したり、携帯電話を所持している方は、自由に電話をかけられるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をリビング、玄関、洗面所に飾り、またリビングや廊下の壁にご利用者の作品や行事の写真を貼り、季節感や生活感を取り入れ、居心地の良い環境をつくっている。	2階建の一軒家で、玄関先に咲く季節の草花を、室内の随所に生けている。リビングには自然採光があり、室温や換気も調整している。調理の美味しい匂いや会話を楽しみながら、利用者はソファや椅子でくつろいで過ごしている。壁には季節に応じた貼り絵などの作品や写真を飾っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性を考慮してテーブルの席を配置している。気の合うご利用者同士でソファに座り雑談されたりテレビを観られたりしている。ご利用者によっては、ひとりで落ち着いて過ごせる時間が出来るよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスを持参されたり、ご家族との思い出のして写真やご本人の手作りの作品を飾ったりして、居心地よく生活できるように工夫している。	居室には、テレビ等の家電や、寝具、籐の椅子等利用者が希望し、使い慣れた物を持ち込むことができ、安心して過ごせる様にしている。壁には家族の写真や習字、得意の絵等が飾られている。利用者が、一人でゆっくりと過ごせる様に配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し安全に歩行できるようにしている。またトイレや居室がわかりやすいように表示している。家具の配置を工夫し安全に過ごせる環境作りをしている。		